



【はじめに】

日差しが強くなり、汗ばむ日も出てきました。今月号は水遊びに関する園の決めごと等載せています。大切なことなので目を通していただけたらとっても嬉しいです♪

アタマジラミのいる子がいます。こどもは頭をくっつけあって遊ぶこともあるので、ご家庭でも一度こどもの頭髪をチェックし、スッと指で取れないものが髪の毛にくっついている場合はアタマジラミを疑って（専用シャンプーで駆除できます）対応し、保育園にもお知らせください。

【歯科健診について】

6/12（木）に行います。

当日の朝もしっかり歯を磨いて登園しましょう。

★ 年長児になっても、**毎日の仕上げみがきは大人がしっかりと！**

“子どもが自主的に”という年齢でもありますが、歯磨きについては大人による“仕上げみがき”が重要です。



【水遊びについて】

毎年6月から水遊びを行っています。水遊びやプール遊びが出来るようになった時に思い切り楽しめるように日ごろから感染症に気を付けましょう。**皮膚のトラブルがある場合は今のうちに受診しておくとう良い**でしょう。体調によるプールに入るかどうかの判断は、保護者の方の判断でお願いします。以下の場合は水遊びやプール遊びはできません。

- せき、鼻水、微熱がある、おなかの調子が悪い、体調がすぐれない時。
- 薬を持って登園している。
- 目が赤く充血している。普段より多く目やにが出ている。
- 耳を痛がる。のどが赤い、痛い。
- 虫刺されや傷等で皮膚の状態が良くない。
- 水いぼやとびひについては次項をご覧ください**
- つき・はな・ほしぐみでスイムキャップを忘れた子。

【水いぼ・とびひとプール遊びについて】

① とびひ

・**患部のじゅくじゅくした部分が乾くまでプール遊びはできません。**

・患部をかくことで悪化したりプール遊びで周囲のこどもに感染することを防ぐためです

※患部に薬を塗布して浸出液がしみ出ないようにガーゼで覆ってあれば、登園は可能です。

※とびひは全身に広がり悪化すると入院治療が必要なケースもありますので、早期発見早期治療が重要です。

② 水いぼ

・**水いぼをラッシュガードや水着で覆って入ります。**

・**それらで覆うことができない箇所にあるものは耐水性のフィルム等で覆ってください**（ドラッグストア等で用意をお願いします）。

・覆うことができない箇所に多数ある場合は、皮膚科で摘除してもらうなど治療を相談しましょう。摘除後のプール再開については傷口が完全に治癒してからです。

・皮膚と皮膚が接触することで周囲のこどもに感染することがありこれを防ぐためです。

※摘除は痛みを伴います。内服治療は時間が1～数か月かかります（ヨクイニンという生薬で、効果がないこともあります）。このため水いぼの数が少ないうちに早めに皮膚科を受診して、治療するのがポイントです。

※水いぼは、2年程度で自然治癒することが多いため様々な見解があります。が、感染性のものであり、皮膚の弱いこども等様々なリスクのあるこどもも含め集団生活をしている観点から、厚生労働省のガイドラインや園医の助言をもとに一定のルールを提示させていただいています。

※こども家庭庁の「保育所における感染症対策ガイドライン」はどなたでもアクセスできて、わかりやすく書いてあるのでご参照ください。さまざまな感染症について知ることができます（例：水いぼ→73（68ページ）、とびひ→74（69ページ））。インターネットで「保育所における感染症対策ガイドライン」で検索してみてください★

カウンセラーだより ～何も教えない赤ちゃんはどんな言葉を覚える？～

こんにちは！今日は少しこわい、けれどもひとの“発達”にとって大事な研究について紹介したいと思います。今から約800年前のローマ皇帝フリードリヒ2世の実験を知っていますか？その実験は「言葉を教わらなかった赤ちゃんはどんな言葉を話すようになるのか？」という実験でした。生後間もない赤ちゃんに、生きるために最低限のお世話のみをし、それ以外のスキンシップ・コミュニケーションを禁止しました。赤ちゃんとの視線を合わさず、笑いかけず、話しかけてはいけないという環境の中で育った赤ちゃんは、その後どうなったと思いますか？実は、このような環境で育った赤ちゃんはほとんどが2歳になる前に亡くなってしまったようです。とても残酷な実験で批判も多いものですが、この結果からはひとは生命維持だけでは生きられないこと、周りの人とのコミュニケーションやスキンシップが生きるためにとても大切であることが明らかとなりました。私たちも、お家や保育園の日常の中での、“当たり前だけどとっても大切な”子どもとの関わりを大切にしていきたいですね！（保育カウンセラー・中島たかひろ）

【おわりに】

梅雨の時期は、湿度が高くなり、体感温度も上がるため様々な影響が出てきます。熱中症もこの時期から注意が必要です。日ごろから汗をかくようなこと（入浴、運動など）をすることで、熱が体にこもってしまうことを防ぎ気候の変化にうまく順応できる体質づくりにつながります。身体をめいっぱい使ってこどもと遊ぶのも良いかもしれません。ただし、そのあとは、水分補給をお忘れなく！